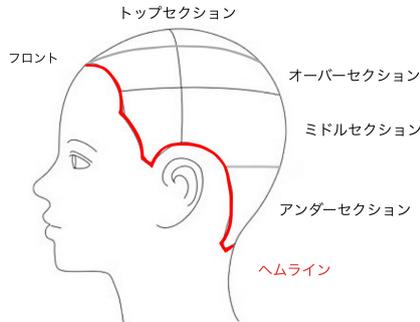


毛量調整・質感調整理論

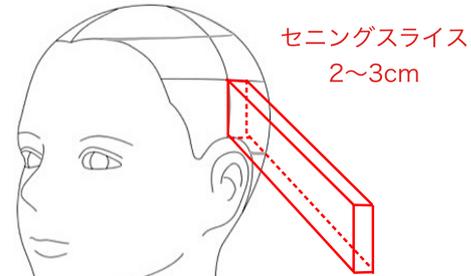
まず基本工程として必ず毛量調整（セニング）を行なった後に質感調整（チョップカット・スライドカット・ストローク）をしましょう。

① セクションの特徴と考え方



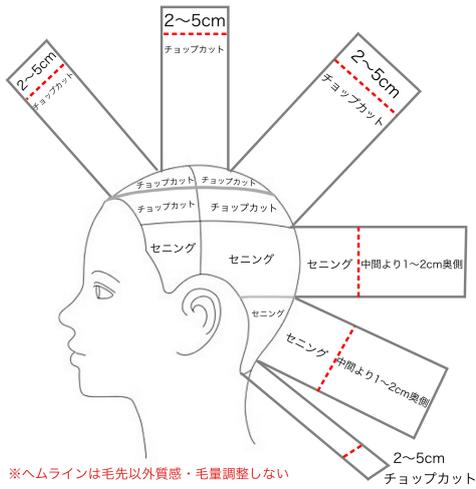
トップセクション... 1番動きがでる部分。表面を傷つけないよう気をつける。
 オーバーセクション... 2番目に動きが出る部分。ウェイトバランスが決まる部分でもあるので毛先の過度な毛量調整に注意。
 ミドルセクション... 毛量が溜まりやすくあまり動きが出ない部分。サイドよりバックの毛量を多く調整する事を意識する。
 アンダーセクション... 毛量が溜まりやすく全く動きが出ない部分。レングスが薄くなり過ぎないようヘムライン2センチ程外すのがポイント。

② スライスの方



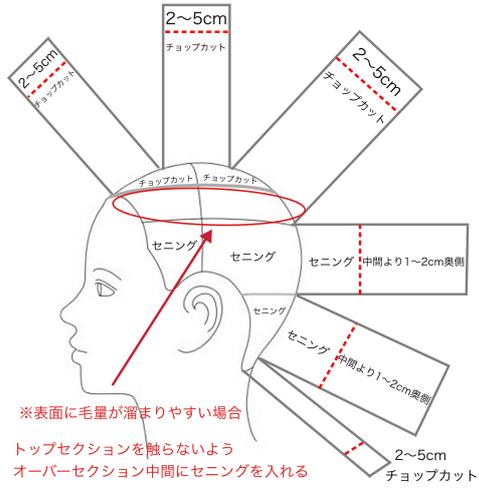
- ① スライス幅は必ず一定を保ち均一にセニングを入れる事を1番意識する。これができないと時間がかかり不均一な仕上がりととなる。
- ② 特に髪質が硬かったり毛量が多い場合はスライスが薄いほうが的確に毛量調整しやすい。

③ セニングとチョップカットの入れ幅と区画



※ヘムラインは毛先以外質感・毛量調整しない

④ イレギュラーな毛量調整



※表面に毛量が溜まりやすい場合
 トップセクションを触らないよう
 オーバーセクション中間にセニングを入れる

⑤ 骨格補正と毛量調整のコンビネーション

